

第2期 パラ水泳 中・長期計画 2024－2032

別添 3

連盟の取り組みと関連する出来事及び経過

活動振り返り

◆ 連盟の取り組みと関連する出来事及び経過1/4 ◆

時 期	内 容
1964年11月	東京オリンピック・パラリンピック大会が開催される
1965年	第1回全国身体障害者スポーツ大会(岐阜大会)が開催される ※この大会は一生涯に1度の参加しか許されず県レベルの大会しか競技会がない状況であった
1974年5月	大阪市・長居に日本で初めての身体障がい者専用のスポーツセンターが開設される ここにおいて水泳愛好家が集まり活動が開始される
1984年4月	日本身体障害者水泳連盟が発足する(任意団体) ※事務所は大阪市長居障害者スポーツセンター内に置かれる
1984年9月	第1回日本身体障害者水泳選手権大会が開催される(大阪市身体障害者スポーツセンターにおいて(現・大阪市長居障がい者スポーツセンター))
1986年	関東身体障害者水泳選手権大会が開催される ※以後、関東以外の近畿・九州・東北・中部・中四国でも開催され、全6地区において開催が進む
1989年	国際パラリンピック委員会(IPC)が設立される
1989年	極東・南太平洋障害者スポーツ大会('89フェスピック神戸大会)が開催され、神戸からパラ水泳への取り組みが推進される
1991年11月	第1回ジャパンパラリンピック(現在はジャパンパラ)水泳競技大会が東京体育館室内プールにおいて開催される ※国際(IPC水泳:現 World Para Swimming)競技規則による競技会の開催
1993年～	IPC第1回パラ水泳世界選手権大会への選手派遣、4年毎のパラリンピック大会への選手派遣、選手強化への科学的取り組みなどパラ水泳への取り組みが強化される

◆ 連盟の取り組みと関連する出来事及び経過 2/4 ◆

時 期	内 容
2008年1月	第1回春季記録会(静岡)を開催する(強化競技力向上記録会及び一般長距離記録会) ※2010年3月から世界パラ水泳連盟公認大会
2013年4月	一般社団法人日本身体障がい者水泳連盟を設立し、神戸市に事務所を設置する ※日本身体障害者水泳連盟(任意団体)を解散し、新法人を設立
2013年9月	東京2020オリンピック・パラリンピック大会の開催が決定される
2014年4月	障がい者スポーツの所管が、厚生労働省から文部科学省に移管される
2014年4月	公益財団法人日本水泳連盟に、身体障がい者・知的障害者・ろう者の3者で構成する「障がい者水泳協会」として加盟する
2015年6月	神戸市民選手権大会に出場したパラ選手の記録を、世界パラ水泳連盟公認大会とする
2015年10月	文部科学省内に、スポーツ庁が設置される
2015年11月	第32回日本身体障がい者水泳選手権大会をIPC水泳(現世界パラ水泳連盟)公認大会とする ※この結果、日本国内の4つの大会が国際公認大会になった
2015年11月	当連盟の東京オフィスを、日本財団パラリンピックサポートセンター(現パラスポーツサポートセンター)内に開設する
2016年7月	選手発掘等パスウェイ事業の取り組みを開始する(拠点は、まほろば健康パーク「スイムピア奈良」)
2016年9月	当連盟は、リオ・パラリンピックとリオ・オリンピックを一本化した水泳祝賀会を日本水泳連盟とともに開催する
2016年10月	スポーツ庁において「競技力強化のための支援方針(鈴木プラン)」が発表される

◆ 連盟の取り組みと関連する出来事及び経過 3/4 ◆

時 期	内 容
2017年3月	文部科学省が「第2期スポーツ基本計画」を策定する
2017年4月	パラサポ板橋サテライトオフィスを強化拠点事務所として、東京都北区ナショナルトレーニングセンター(現ハイパフォーマンスセンター)近隣に開設する
2017年4月	立教大学池袋プールが、スポーツ庁により競技別強化拠点に指定される
2017年11月	東京2020水泳競技大会の国際競技役員養成研修会を日本水泳連盟加盟団体の県水泳連盟に案内し実施する。
2019年6月	スポーツ庁が「スポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞」を公表する
2019年11月	ハイパフォーマンスセンター(旧ナショナルトレーニングセンター)Eastが開設、強化拠点として強化が始まる
2020年1月	世界保健機構(WHO)が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言
2020年2月	政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」が出される
2020年3月	政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」が出され、以後時宜に応じ変更されている
2020年3月	東京2020五輪・パラリンピック開催が2021年に延期された
2020年4月	第1回の全国一律の新型コロナ感染症対策緊急事態宣言が出される。この結果、様々な催しが中止となった。その後、地域を分けて感染症対策として、緊急事態宣言が4回、まん延防止等重点措置が2回発出された
2020年6月	「新しい生活様式」の下、感染対策を実施しながら段階的な活動再開プログラムによって徐々に練習を再開
2021年3月	第37回日本パラ水泳選手権大会をコロナ禍の中、無観客により富士水泳場(静岡県)で開催する
2021年3月	スポーツ団体ガバナンスコードの遵守状況に関し、公益財団法人日本パラスポーツ協会の調査チームによる4年に1度の適合性審査を受審し、それを踏まえて自己説明・公表を行う。以後毎年10月に自己説明・公表を行う

◆ 連盟の取り組みと関連する出来事及び経過 4/4 ◆

時 期	内 容
2021年3月	当連盟の名称を「一般社団法人日本パラ水泳連盟」に変更し、日本知的障害者水泳連盟、日本デフ水泳協会(当時ろう者水泳協会、2022年6月名称変更)を代表し、公益財団法人日本水泳連盟に加盟した
2021年6月	東京ハイパフォーマンス事務所をハイパフォーマンスセンター近隣の板橋区、前野町に開設する。この結果、当連盟の事務所は、神戸本部事務所、日本財団パラスポーツサポートセンター内事務所を含め3か所体制となる
2021年8月	東京2020パラリンピックが開催され、当連盟の選手が金2、銀7、銅3の合計12個のメダルを獲得した
2021年8月	公益財団法人日本パラスポーツ協会が「2030年ビジョン—活力ある共生社会の実現に向けて」を公表する
2021年7月～8月	「パラ水泳応援」通信記録会を開催する(以後4地区で開催し、総合順位により日本選手権で表彰する)
2022年3月	スポーツ庁が「第3期スポーツ基本計画」を策定する
2022年8月	文部科学省が「障害者スポーツ振興方策に関する検討チーム報告書(高橋プラン)」を公表する
2023年5月	新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症になる
2023年9月	スポーツ庁が「スポーツ団体ガバナンスコード<中央競技団体向け>」を改定する
2024年3月	公益財団法人日本水泳連盟がパリ五輪日本代表選考戦でパラ水泳日本代表選手の壮行会を実施、選手による泳ぎの披露も実施した

主な年間事業

I 競技会の開催及び支援・後援事業

1. 地域大会の開催支援
2. 日本パラ水泳選手権大会の開催
3. ジャパンパラ水泳競技大会の共催
4. 春季（静岡）チャレンジレースの開催
5. 神戸市民選手権大会・横浜インクルーシブ大会、スイミングクラブ全国大会等への参加
6. 通信記録会の開催

II 競技力向上事業

1. パスウェイモデル「FTEM」の構築
2. 強化・育成選手合宿の開催
3. 発掘・育成キャンプの開催（J-Star含む）
4. 海外大会等への派遣

III パラ水泳研修会の開催及び普及、社会貢献事業

1. FTEMと連動した指導者研修会
2. 競技運営研修会
(公認競技役員養成講習会)
3. 海外派遣（国際資格取得）研修
4. アスリートによる社会貢献活動
5. 企業、学校等との協働・連携事業
6. 新しい水中運動の開発

2013年度の事業

区分	事業内容	月日
I 競技会の開催及び 支援・後援事業	①地域連盟による大会開催の支援	6月
	②第30回日本身体障がい者水泳選手権大会の開催(神戸市)	9月14・15日
	③2013ジャパンパラ水泳競技大会の共催(大阪府)	7月14・15日
	④春季記録会の開催(静岡県)	3月2日(2014年)
II 競技力向上事業	①日本代表及び強化・育成選手合宿の開催	4月～12月
	②地域エリア合宿の開催	各地域年2回
	③海外大会等への派遣 (1) カナダ世界選手権大会(選手19名、スタッフ10名) (結果:金3、銀3、銅3) (2) マレーシア・アジアパラユース大会(選手28名、スタッフ13名) (結果:金15、銀13、銅10)	8月 10月
III 指導者研修会の 開催と普及	①指導者研修会 ②競技運営研修会 ③海外派遣研修	2014年1月 11月 2014年3月

2014年度の事業



区分	事業内容	月日
I. 競技会の開催及び支援・後援事業	①地域連盟による大会開催支援	6月
	②第31回日本身体障がい者水泳選手権大会の開催(東京都)	11月8・9日
	③2014ジャパンパラ水泳競技大会の共催(大阪府)	7月20日・21日
	④春季記録会の開催(静岡県)	3月1日(2015年)
II. 競技力向上事業	①日本代表及び強化・育成選手合宿の開催	4～11月
	②地域エリア合宿の開催	各地域年2回
	③海外大会等への派遣 (1) イギリスオープン・ドイツオープン転戦(選手17名、スタッフ14名) (2) パンパシフィック水泳競技大会 (選手5名、スタッフ6名、結果:金1、銀3、銅6、計10) (3) 仁川2014アジアパラゲームス(金16、銀14、銅22、計52)	4月 8月 10月
III. 指導者研修会の開催と普及	①指導者研修会 ②競技運営研修会 ③海外派遣研修	2015年1月 11月 2015年1月

2015年度の事業



区分	事業内容	月日
I. 競技会の開催及び 支援・後援事業	①地域連盟による大会開催支援	5、6月
	②第32回日本身体障がい者水泳選手権大会の開催(宮城県)	11月8・9日
	③2015ジャパンパラ水泳競技大会の共催(東京都)	9月5日・6日
	④春季記録会の開催(静岡県)― リオ2016パラリンピック水泳日本代表推薦選手選考戦	2016年3月6日
II. 競技力向上事業	①強化・育成選手中央合宿の開催 ＜海外遠征対応合宿＞ ＜障がい別合宿＞	4～11月 7月 8～2016年1月
	②地域エリア合宿の開催	各地域年2回
	③海外大会等への派遣 (1) 2015IPC―SW世界選手権大会:英国・グラスゴー (選手20名、スタッフ21名、結果:金2、銀4、銅1、計7) (2) 2015IWAS大会:ロシア・ソチ (選手15名、スタッフ15名、結果:銀3、銅4、計7) (3) 2015アメリカ・カナダオープン (選手12名、スタッフ7名、結果:金23、銀13、銅6、計42)	7月 9月 12月
III. 指導者研修会の 開催と普及	①指導者研修会 ②競技運営研修会 ③海外派遣研修	2016年1月 11月、12月

2016年度の事業



区分	事業内容	月日
I. 競技会の開催及び支援・後援事業	①地域連盟による大会開催支援	6、7月
	②2016ジャパンパラ水泳競技大会の共催とリオ2016日本代表壮行会(横浜市)	7月17・18日
	③第33回日本身体障がい者水泳選手権大会の開催(福岡市)	11月12・13日
	④春季記録会の開催(静岡県)ーワールドパラ世界水泳選手権日本代表派遣選手選考戦	2017年3月5日
II. 競技力向上事業	①強化・育成選手中央合宿の開催 <リオ2016パラリンピック日本代表選手合宿> <海外遠征対応合宿> <強化・育成選手合宿> <種目別・障がい別合宿>	4月 8月 5月～17年3月 10月～17年1月
	②発掘選手地域エリアキャンプ等合宿の開催	5月～12月
	③海外大会等への派遣 (1)ブラジルオープン大会 (リオ2016テストイベント)(選手6名、スタッフ3名、結果:金5、銀4、銅5、計14) (2)ドイツオープン大会(選手12名、スタッフ9名、結果:銅5、世界新1、アジア新10) (3)IWASーU23世界選手権大会:チェコ・プラハ(選手4名、スタッフ7名、結果:金5、銀3、計8) (4)リオ2016パラリンピック(選手12名、スタッフ12名、結果:銀2、銅3、計5、入賞8) (5)メキシコジュニアパラ水泳大会(選手2名、スタッフ4名)	4月 6月 6月 9月 11月
III. 指導者研修会の開催と普及	①指導者研修会	2016年1月
	②競技運営研修会	12月
	③国際大会運営競技役員研修会	7月
	④海外派遣研修	2017年3月

2017年度の事業



区分	事業内容	月日
I. 競技会の開催及び 支援・後援事業	①地域連盟による大会開催支援	5、10月
	②2017ジャパンパラ水泳競技大会の共催(東京都)	9月2・3日
	③第34回日本身体障がい者水泳選手権大会の開催(千葉県)	11月18・19日
	④春季記録会の開催(静岡県)ーパンパシフィック大会日本代表選手選考戦	2018年3月3・4日
II. 競技力向上事業	①強化・育成選手中央合宿の開催 <世界選手権日本代表選手合宿> (4月～9月) <海外遠征対応合宿>アメリカ(4月～5月) <海外遠征対応合宿>スペイン(8月) <強化・育成選手合宿>(5月～2018年3月) <種目別・障がい別合宿>	4月～9月 4月、5月 8月 5月～2018年3月
	②発掘選手地域エリアキャンプ等合宿の開催	5月～2018年1月
	③海外大会等への派遣 (1)イギリスオープン大会 (金1、銅1、計2、アジア新1 選手3名、スタッフ8名) (2)ドイツオープン大会 (金5、銀2、銅3、世界新3、アジア新8、選手16名、スタッフ16名) (3)アジアユースパラバイ大会 (金19、銀12、銅12、選手22名、スタッフ15名) ※メキシコ世界選手権大会 <メキシコ地震による震災により延期されるも、諸事情により参加せず>	4月 7月 12月
III. 指導者研修会の 開催と普及	①指導者研修会(2018年1月) ②競技運営研修会(12月) ③国際大会運営競技役員研修会(11月)	2018年1月 12月 11月

2018年度の事業



区分	事業内容	月日
I. 競技会の開催及び 支援・後援事業	①地域連盟による大会開催支援	6、7月
	②2018ジャパンパラ水泳競技大会の共催(神奈川県)及び2018アジアパラ競技大会水泳日本代表壮行会	9月22～24日
	③第35回日本パラ水泳選手権大会の開催(三重県) ※今回からこの名称に変更した。	12月1・2日
	④2019パラ水泳春季記録会件世界パラ水泳選手権大会日本代表選手選考戦の開催(静岡県)	2019年3月3・4日
II. 競技力向上事業	①強化・育成選手中央合宿の開催 ＜アジアパラ日本代表合宿＞ ＜パンパシフィックパラ水泳選手権大会日本代表合宿＞ ＜強化・育成選手合宿＞	4月～9月 4月～6月 6月～2019年2月
	②発掘選手地域エリアキャンプ等合宿、J-STARプロジェクトの開催	5月～2019年2月
	③海外大会等への派遣 (1)2018WPSインディアナポリス大会(選手3名、スタッフ3名) (2)2018 ワールドパラシリーズ大会(選手14名、スタッフ12名) (3)パンパシフィックパラ水泳選手権大会(金19,銀20,銅8, 選手11名、スタッフ13名)	4月 5～6月 7～8月
	④アスリートパスウェイの戦略的支援事業	7～3月(2019年)
III. 指導者研修会の 開催と普及	①指導者研修会 ②競技別指導者講習会:公認競技役員養成研修会(12月) ③国際レベル2競技役員研修会	2019年1月 12月 7月～2019年3月

2019年度事業



区分	事業内容	月日
I. 競技会の開催及び支援・後援事業	①地域連盟による大会開催支援	6～7月
	②2019 ジャパンパラ水泳競技大会の共催(神奈川県)及びロンドン 2019WPS 水泳選手権大会日本代表報告会	9月
	③第36回日本パラ水泳選手権大会の開催(千葉県)	11月
	④2020 パラ水泳春季記録会兼東京パラ大会日本代表選手選考戦の開催(静岡県)	2020年3月
II. 競技力向上事業	①強化・育成選手中央合宿の開催 ＜ロンドン 2019 世界パラ水泳選手権大会日本代表合宿＞ ＜強化・育成選手合宿＞	4～5月 4～11月
	②発掘選手地域エリアキャンプ等合宿、J-STARプロジェクトの開催	5月～2020年2月
	③海外大会等への派遣 (1)2019WPS世界選手権大会(選手8名、スタッフ11名) (2)2019 ワールドパラシリーズ大会派遣①(選手5名、スタッフ5名) (3)2019 ワールドパラシリーズ大会派遣(選手11名、スタッフ10名) (4)2019 ワールドパラシリーズ大会派遣(選手16名、スタッフ11名)	9月 4月 5月 6月
III. 指導者研修会の開催と普及	①公認障がい者水泳指導員資格修得講習会初級 Step1、Step2 ②公認中級障がい者水泳指導員資格修得講習会 ③競技別指導者講習会(公認競技役員養成研修会) ④国際オフィシャル資格レベル2競技役員国際大会運営研修会	2018年1月 11月 12月 9月ー2020年3月

2020年度事業

区分	事業内容	月日
I. 競技会の開催及び支援・後援事業 (中止又は感染対策をして実施)	①地域連盟による大会開催支援(地域大会はすべて中止)	5～7月
	②2020ジャパンパラ水泳競技大会の共催(神奈川県)※新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止	5月
	③第37回日本パラ水泳選手権大会グランディ21(宮城県)の開催は中止し、翌年WPS公認の春季記録会に代えて実施	2021年3月
II. 競技力向上事業 (中止又は感染対策をして実施)	①強化育成合宿及び秋季記録会の開催	11月7日～8日
	②強化・育成選手中央合宿の開催 ＜2020 東京パラ日本代表推薦候補強化合宿＞ ＜強化・育成選手合宿＞	12月25日～30日 8月～2021年3月
	②発掘選手地域エリアキャンプ等合宿、J-STARプロジェクトの開催	12月～2021年2月
	③海外大会等への派遣 2020WPSワールドシリーズシェフィールド大会派遣(選手5名、スタッフ5名)を予定するも、新型コロナウイルス感染症拡大のため直前にキャンセルになる	4月
III. 指導者研修会の開催と普及 (中止又は感染対策をして実施)	①公認障がい者水泳指導員資格修得講習会初級 Step1、Step2 ※更新者のみオンラインで実施	2021年1月
	④国際オフィシャル資格レベル2競技役員国際大会運営研修会(海外指導役員なしで実施)	2021年3月

2021年度事業



区分	事業内容	月日
Ⅰ. 競技会の開催及び支援・後援事業	①地域連盟による大会開催支援 ※新型コロナウイルス拡大の影響により中止になった地域あり	7～1月(2022年)
	②2021ジャパンパラ水泳競技大会の共催(神奈川県)(東京2020パラリンピック水泳競技日本代表選考戦)	5月
	③第38回日本パラ水泳選手権大会の開催(千葉県)	11月
	④2022パラ水泳春季記録会兼マデイラ2022WPS世界選手権日本代表選手選考戦(静岡県)	3月(2022年)
	⑤Tokyo2020応援企画通信記録会の開催	7月～8月
Ⅱ. 競技力向上事業	①強化・育成選手中央合宿の開催 ＜東京2020パラ日本代表選手等合宿＞ ＜強化・育成選手合宿＞	4～9月 6～12月
	②J-STARプロジェクトの開催	7月～2月(2022年)
	③東京2020パラリンピック競技大会派遣(JPC派遣)	9月
	④海外大会等への派遣 (1)バーレーン2021アジアユースパラ競技大会(JPC派遣) (2)シェフィールドワールドシリーズ大会派遣 (3)ルイスビルWPSワールドシリーズ大会派遣 (4)ベルリンWPSワールドシリーズ大会派遣 (5)リニャーノ・サッピアドーロ2022WPSワールドシリーズ大会派遣 (6)ベルリン2022WPSワールドシリーズ大会派遣	12月 12月 4月 4月 3月(2022年) 3月(2022年)
Ⅲ. 指導者研修会の開催と普及	①公認障がい者水泳指導員資格修得講習会初級 Step1、Step2	1月(2022年)
	②公認中級障がい者水泳指導員資格修得講習会 ※リモートにより開催	11月

2022年度事業



区分	事業内容	月日
I. 競技会の開催及び 支援・後援事業	①地域連盟による大会開催支援	6～2月(2023年)
	②2022ジャパンパラ水泳競技大会の共催（神奈川県）※有観客としては、3年ぶりの実施	9月
	③第39回日本パラ水泳選手権大会の開催（長野県）	11月
	④2023パラ水泳春季チャレンジレース兼2023年度日本代表選手選考競技会の開催（静岡県）	3月（2023年）
	⑤通信記録会の実施	6～10月
II. 競技力向上事業	①強化・育成選手中央合宿の開催 ＜マデイラ2022WPS世界選手権日本代表選手等合宿＞ ＜強化指定選手合宿＞ ＜育成指定選手合宿＞	4～5月 7～12月 4～1月（2023年）
	②パラ水泳普及啓発・発掘エリアキャンプ等合宿の開催 J－SＴＡＲプロジェクトの実施	5～12月 4～2月（2023年）
	③海外大会等への派遣 (1)ベルリンWPSワールドシリーズ大会 (2)マデイラ2022WPS世界選手権大会 (3)2022マクドナルド・クインズランド選手権大会 (4)カナダ遠征合宿派遣（カナダチームとの合同合宿） (5)メルボルン2023 WPSワールドシリーズ大会 (6)シェフィールド2023ワールドシリーズ大会 (7)育成指定選手海外大会派遣（国際クラス取得と海外遠征の経験）	4月 5-6月 12月 1月（2023年） 2月（2023年） 3月（2023年） 11～12月
III. 指導者研修会の開催と普及	①JPSF公認競技役員等養成講習会	12月
	②JPSF公認障がい者水泳指導員資格修得講習会初級	1月（2023年）

2023年度事業



区分	事業内容	月日
I. 競技会の開催及び 支援・後援事業	①地域連盟による大会開催支援、通信記録会の開催	6～10月
	②2023ジャパンパラ水泳競技大会の共催（神奈川県）	9月
	③第40回日本身体障がい者水泳選手権大会の開催（佐賀県）	11月
	④2024パラ水泳春季チャレンジレースの開催（静岡県）－パリ2024パラリンピック日本代表推薦選手選考戦	3月（2024年）
II. 競技力向上事業	①強化・育成選手中央合宿の開催 ＜マンチェスター2023WPS世界選手権日本代表選手等合宿＞ ＜アジアパラ日本代表選手合宿＞ ＜強化指定選手合宿＞ ＜育成指定選手合宿＞	4～7月 9月 12月 4～12月
	②2023パラ水泳ジュニアトレーニングキャンプ（東エリア）の開催 J－S T A Rプロジェクト（6期、7期）の実施	12月 5～2月（2024年）
	③海外大会等への派遣 (1)シンガポール2023WPSワールドシリーズ大会 (2)リモージュ2023WPSワールドシリーズ大会 (3)マンチェスター2023WPS世界選手権大会 (4)杭州2023アジアパラ競技大会（JPC派遣） (5)メルボルン2023WPSワールドシリーズ大会 (6)クイーンズランド2023選手権大会	4～5月 5月 7～8月 10月 12月 12月
III. 指導者研修会の開催と普及	①JPSF公認障がい者水泳指導員資格修得講習会（初級Step1・2）	1月（2024年）
	②JPSF公認障がい者水泳指導員資格修得講習会（中級）	12月
	③JPSF公認競技役員養成研修会	11月